



～有害鳥獣による被害が出たら～

野生動物は基本的にとっても臆病で環境の変化に敏感です。できることから始めていきましょう。

○ 追い払う

とにかく人慣れをさせない、「人は怖い」「人は敵だ」と思わせることが重要です。根気よく地域の連携プレーで追い払いましょう。大きな音など自分でできる工夫をしましょう。



※イノシシに出会った時は、ゆっくり後退し離れ、静かに立ち去るなど、イノシシを刺激しないようにしましょう(イノシシが興奮すると危険です)

○ 柵で守る

イノシシたちによる柵破りの基本は、とびこえる、押し倒すでもなく、「すきまをくぐり抜ける」ことです。イノシシたちの特徴にあわせて柵を設置することが重要です。そして一度設置した柵はきちんとチェックして、効果を持続させていくことが大切です。



《電気柵でのよくあるかんちがい》

- ・イノシシは夜行性だから昼間は切っても大丈夫。
→ 夜行性ではありません。昼間も行動します。
 - ・昼間は子どもたちが通るから電流を流さない。
→ イノシシたちが柵に慣れ、逆効果になることがありますので、24時間通電させましょう。
- ※通電していることを知らせる表示板も必ず設置しましょう

○ 集落ぐるみで徹底的に「嫌がらせ」をしましょう

収穫しない野菜、果実、生ゴミ、お供え物などの放置はえづけと同じです。すぐに回収するなどの処置をしましょう。また、ひそみ場をなくすなど、イノシシが嫌がる環境をつくるのが対策の第一歩です。自分の田畑は自分で守ると同時に、集落で歩調を合わせて田畑を守ることによって、イノシシはさらに集落へ近づきにくくなります。



「電気柵」を張ったあとも

○ 手入れをすることを心掛けましょう

電気柵で囲うのは重要な対策です。しかし安心はできません。わずかな隙間でもあればおいしい「エサ」を見つけて侵入してきます。電線に雑草が接触していると効果が低くなるので、雑草の手入れを怠らないようにしましょう。イノシシは鼻先以外、電気ショックを受けないことを忘れずに。



村内にて毛の抜けたタヌキの目撃情報が寄せられました。

毛の抜けたタヌキは疥癬症に感染しており、数週間ほどで衰弱し死んでしまう場合が多いですが、周りにえさがあると延命し、住宅地などを徘徊します。疥癬症のタヌキは免疫力が落ち、さまざまな病原体に感染している恐れもあります。近づいたり触ったりしないようにしてください。

また、ペットなども疥癬症に感染しているタヌキとの接触によって疥癬症に感染する恐れがありますので、十分注意してください。ペットのえさなどが放置されていると、タヌキが寄り付きやすくなりますので、速やかに片付けましょう。

なお、村ではタヌキの駆除や保護は行っていません。私有地内で死んでいる場合は、ご自身で対応していただくことになります。

～ジビエ協力隊からのおしらせ～

今後、「お肉の解体方法」や「料理方法」など狩猟初心者からベテランの人、また興味があるけど誰に聞いたらいいのか分からないという人まで、村民の皆さんが参加できるさまざまなイベントを計画していきたいと思えます。開催時期は改めてご案内いたしますので興味のある人は事前に登録をお願いします。

鳥獣被害に関する質問・イベントの事前登録を募集中です。



こちらから受け付けています